反則を少なくすることについての Q & A

コラムでくり返して反則数を問題にするので、「反則を少なくする大切さは分かりましたが、それ程重要なことですか」という質問が返ってきました。「そうです」という答えだけで済まされませんのでもう一度とりあげます。

反則が多いということは、非常識なことであり、不正当なことであるという反省は、スポーツは本来楽しむものであり、楽しむために人間が作り出したものであるから、人間が楽しむ心得即ち土壌ともいうべき文化を発展させることが肝要で、それを怠ると本来の意味を失い目的を見失うことになってしまいます。

プレーについて実際的に考えましょう。反則をしないということは、作戦的に試合を楽しむためにも、そして勝つためにも必要なことで、プレヤーとして必須の条件なのです。勝敗を争う中で自チームの反則で自らの攻撃を途切らせないということは、優位に立つ条件の一つで、勝つために必要なことです。プレーを切らないで展開継続することは、相手を惑わせ振り切り突破する重要な過程要素です。

また、本来的にボールを持って走り回ることは楽しいものです。プレーが切れない分だけボールを持つ回数も増えます。ゴツゴツぶつかり合うだけでは面白くありません。結果的に楽しいということはプレーヤーにとって大切なことです。

楽しいラグビーにもう一つ大切な観点が要件に含まれます。それは、観衆にとってプレーが継続しボールが華々しく展開されるラグビーは見ても楽しいものであるということです。一方、ラグビーの試合を見ても楽しくないという人達の感想は、一様にして「分かりにくい」ということです。それも「反則がわかりにくい」という声が圧倒的です。ルールの説明をきいても分かりにくいし、一応規則としてわかってもラグビーの面白さにまでつながらない結果、ラグビーは分からないから面白くない」という結論になってしまっています。反則が無いとそれだけとぎれるところがずっと少なくなるということです。試合中笛がふかれるのは反則、前パスと、前へボールを落とした時と、タッチからでてしまった時がほとんどで、あとはトライとタッチダウンを含めて初めて見る人にも分かり易いものばかりです。即ち反則が少なくなるということは、ラグビーが見て分かり易くなり、面白くなり、楽しくなってラグビー愛好者が増えるという循環が始まるのです。また、ラグビーをやってみようという若者が増えて明るい未来につながるのです。

ラグビーという、偉大な先人達がつくったすばらしいスポーツが、反則に対する認識不足からくる不心得なプレーヤーによって楽しくないものになってしまっているのは誠に残念なことです。現状のままでは、ラグビーの中味に関係なく、勝敗だけに興味関心をもっている人達をラグビー愛好者として留め置くことはできても、広くラグビーに興味関心をもつ人口の維持と増加は望めないのです。日本ラグビーの緊急課題である「人気と実力の向上」に直接つながると確信をもって言える問題なのです。

2006.02.04
西川　義行